

enocoのそうだん [eno so done!]

相談シート08 市民協働は思い切って市民に任せること

[トップ](#) >> [enocoのそうだん \[eno so done!\]](#) >> [相談シート08](#)

アドバイザー

茶谷 幸治（ツーリズムプロデューサー／一般社団法人 大阪あそ歩委員会 代表理事）

イベントとツーリズムのプロデューサーとして「アーバンリゾートフェア神戸'93」のチーフプロデューサーを皮切りに「世界リゾート博」の催事プロデューサー、「南紀熊野体験博」「しまなみ海道'99」の総合プロデューサーを務め、一貫して地域・住民主体の地域活性化イベントを主導してきた。その集大成が「長崎さるく博'06」で、日本ではじめてのまち歩き博覧会を市民主体で成功させた。その後も、大阪コミュニティ・ツーリズム推進連絡協議会「大阪あそ歩」、「名古屋やっとかめ文化祭」総合プロデューサーとして地域主体を推し進めている。1946年大阪生まれ。著書に『まち歩きが観光を変える』（学芸出版社）『イベント化社会』（関西学院大学出版会）『「まち歩き」をしかける』（学芸出版社）ほかがある。



相談者

高石市 地域活力創出課

相談分野（キーワード）

[地域活性](#)

[市民協働](#)

[観光](#)

[まちづくり](#)

[文化](#)

[広報・PR](#)

[その他](#)

主な相談内容

住民の力を引き出し、更にリーダーシップを発揮できる人物を発掘して、地域の洋館等を活かした南海高師浜駅周辺の活性化につなげたい。

Q 1

市民の力をどうやって活かしたら良いでしょうか。

A 1-1

思い切って民間に事業を任せることを考えましょう。行政が口出しせずに何か市民がボランティアで行なえることはないでしょうか？

例えばニューヨークでは、1960年代にボロボロになった時代があり、様々な施策を打っても上手くいきませんでした。そこで市民が立ち上がり、地下鉄を中心に市民パトロールや、セントラルパークの警備や花壇の整備を行ないました。市も次第に市民（民間団体）にパークの運営を任せるようになり、公園やステージ、動物園の使用権限も委譲していき、今では様々なイベントを公的な場所を使って、市民主導で行なえるようになってきました。これが大成功しています。

A 1-2

実のところ、行政は市民活動の動き全体を把握し切れていないのが現状です。これを機会に市民活動の実態調査をしてみてもどうでしょうか？市民の活動は非常に手間がかかるということが、よく分かると思います。大事なのは、地方行政は常に市民と同じ目線でいなければならないということです。

自分の街を見つめる。自分の生きている在処がよく分かる、自分のまちが愛おしくなる。そのプロセスがよく理解できると思います。

例えば地域の風景をフォトコンテストして、綺麗だね、と言うだけでは駄目です。

私が取り組んでいるまち歩きは、単なるイベントではありません。綺麗などころばかりではない、まちそのもの、汚れた部分もまちの歴史として浮き彫りにしていくことがまち歩きです。

Q 2

市民を巻き込む方法を具体的に教えて下さい。

A 2

定年退職されて、時間のつぶし方に困っている人、時間を持て余している人はたくさんいます。その人たちと何ができるかを考えてみることです。ポイントは、社会的に意味のある役割であるかどうか。頻度は理想的には年2回、甘えて月に1回。更に交通費が出せればグッドです。また、とにかく「若者を」という視点はやめた方が良いでしょう。熟年を対象にした視点を持つべきです。参加する人も活動する人も熟年が多い。国際的にもこの視点にシフトしています。もし若者を対象にするなら、無料で遊べるイベントを考えましょう。

相談者の声

今までは行政の視点（予算・盛り上がるイベント等）を重点において考えていたが、何より市民の視線が大事ということに改めて気付かされた。自分たちの町の何を自慢するのか、市民と一緒に何を行うことができるのかを念頭に置いて、地域活性化につなげていきたいと感じました。

サイトポリシー・ プライバシーポリシー	> enocoについて	> お知らせ・プレスリリース	ツイート	^
指定管理者	> 事業紹介	> メルマガ登録		
バナー広告募集	> フロアガイド	> ニュースレター		
	> レンタルスペース	> お問い合わせ > アクセス		